

金澤市内某男子中等學校生徒ノ 集團檢診成績 (第1報)

金澤醫科大學谷野内科教室 (主任谷野教授)

更田 康彦 和田 光
Yasuhiko Fukeda *Hikaru Wada*

安藤 鎌次郎 三邊 義人
Kamajiro Ando *Yoshindo Minabe*

荒木 一郎 加藤 武雄
Ichiro Araki *Takeo Kato*

山本 尚忠
Naotada Yamamoto

(昭和17年8月26日受附)

(本編ノ要旨ハ第19回日本結核病學會ニ於テ發表セリ)

内 容 抄 録

金澤市内某男子中等學校生徒751名ニツキ集團檢診ヲ行フ。「ツ」皮内反應陽性率ハ $39.3 \pm 1.8\%$ 、「レ」線所見上結核性變化アリト認ムルモノ $64.7 \pm 1.7\%$ 、赤沈促進者 $12.3 \pm 1.3\%$ ナリ。

此等ニツキ種々ノ角度ヨリ統計的觀察ヲ行ヘリ、結核菌檢査ニテハ陽性者ナシ。要注意者74名ヲ發見セルモ何レモ感染源ト認ムベキモノニアラズ。

目 次

第1章 緒 論

第2章 調査對象及ビ調査方法

第1項 調査對象

第1目 調査人員

第2目 調査施行期日

第2項 調査方法

第1目 「ツベルクリン」皮内反應

第2目 「レントゲン」線檢査

第3目 赤血球沈降速度測定

第4目 含嗽水結核菌培養

第5目 一般身體檢査

第3章 調査成績

第1項 「ツベルクリン」皮内反應成績

第1目 「ツベルクリン」皮内反應ノ陽性率及ビ學年別成績

第2目 出身小學校別成績

第3目 父兄ノ職業別成績

第4目 既往症別成績

第5目 肺活量トノ關係

第2項 「レントゲン」線檢査成績

第1目 「レントゲン」線所見

第2目 「レントゲン」線所見ト「ツベルクリン」皮内反應

第3項 赤血球沈降速度

- 第1目 赤血球沈降速度ト「レントゲン」線所見
- 第2目 赤血球沈降速度ト「ツベルクリン」皮内反應
- 第3目 赤血球沈降速度ト既往症
- 第4項 含嗽水結核菌培養
- 第5項 要注意者

- 第4章 考察
- 第1項 「ツベルクリン」皮内反應
- 第2項 「レントゲン」線所見
- 第3項 赤血球沈降速度
- 第5章 結論
- 文獻

第1章 緒 論

國家非常時ニ際シ物的資源ト共ニ人的資源ノ重要性ハ益々増大セリ。カ、ル見地ヨリシテ青少年ノ健康調査、特ニ結核ヲ主トシテノ集團檢診、體力検査等ガ國家の事業トシテ行ハレ、疾病ノ豫防、早期發見等ニ努力セラル、ニ至レリ。余等モ亦此ノ男子ノ國家の要求ニ沿フ可ク金澤市内某男子中等學校生徒751名ニツキ「ツベルクリン」皮内反應、「レントゲン」線検査、赤

血球沈降速度測定、喀痰検査、一般生體測定、既往症ノ調査等ヲ行ヒ、種々ノ統計の觀察ヲ行ヒタリ。勿論カ、ル調査ハ單ニ1日ノミ之ヲ施行スルモ其ノ意義尠ク之ヲ續行シ同一生活條件ニ於ケル結核感染及ビ發病ノ状態ヲ動的ニ觀察檢討シテ初メテ意義アラシメ得ルモノナルヲ以テ逐年の検査ヲ續行スル豫定ナルモ今回ハ其ノ第1回檢診成績ヲ報告セントス。

第2章 調査對象及ビ調査方法

第1項 調査對象

第1目 調査人員

調査人員ハ金澤市某男子中等學校生徒全員751名ニシテ第1學年159名、第2學年158名、第3學年154名、第4學年151名、第5學年129名ナリ。年齢ハ12年9ヶ月ヨリ18年9ヶ月ニ及ブ。

第2目 調査施行期日

昭和15年10月下旬ヨリ同年12月初旬ニ亘リ施行ス。

第2項 調査方法

第1目 「ツベルクリン」皮内反應

舊「ツベルクリン」1000倍液0.1ccmヲ用フ。原液ハ傳研製舊「ツベルクリン」ニシテ無菌の操作ノモトニ生理的食鹽水ヲ以テ1000倍ニ稀釋シ、石炭酸ヲ追加セズ。注射器ハ1ccmヲ200ニ分割セル「ルエチン」注射器ヲ、注射針ハ内徑4分ノ1耗ノモノヲ用ヒタリ。注射部位ハ左側前膊ヲ選ビ其ノ屈側面ニシテ上膊ニ近キ部位ニ施行セリ。反應ノ判定ハ全國公立結核療養所長會議並ニ健康相談所長會議ノ決定⁽¹⁾ニ從ヒ5mm以上ヲ陽性トナシ、4mm以下ヲ陰性トセリ。

第2目 「レントゲン」線検査

第1學年生徒159名全員及ビ第2學年以上ノ生徒ニシテ一般身體検査、「レントゲン」線透視、既往症等ニ

ヨリ疑ハシキモノ100名、合計259名ハ「レントゲン」線寫眞撮影ヲ、残りノ492名ニハ「レントゲン」線透視ノミヲ行ヘリ。

第3目 赤血球沈降速度測定

赤血球沈降速度測定ハ Westergren 氏法⁽²⁾ニ從ヒ實施セリ。枸橼酸曹達ハ3.8%ノモノヲ用ヒ、1時間後及ビ2時間後ノ値ヲ記録セリ。測定時ノ氣温ハ18.0°C乃至26.0°Cナルモスベテ20.0°Cノモノニ換算セリ(換算方法ハ漁村ニ於ケル結核ノ研究、柿下他5名、金澤醫科大學十全會雜誌、第47卷第5號1206頁、昭和17年5月考照)測定ハ午後1時ヨリ午後4時マデノ間ニ行ヘリ。赤血球沈降速度ノ正常値ハ諸家ニヨリテ區々ナルモ余等ハ横井等⁽³⁾ニ從ヒ1時間値1mm乃至12mmヲ以テ正常値ト定メタリ。

第4目 含嗽水結核菌培養

生理的食鹽水ニテ含嗽セシメ、喀痰ノ嚙出ヲ容易ナラシメ、10名一括シテ硫酸法ニテ處理シテ小林培地ニ5ヶ月間孵卵器中ニ於テ培養セシ成績ナリ。

第5目 一般身體検査

身體診察、體温測定、肺活量測定、檢尿、檢便等ヲ行ヘリ。尙諸種生體計測ヲモ行ヘルガ此ニ關シテハ他日報告スル所アルコシ。

第3章 調査成績

第1項 「ツベルクリン」皮内反應成績

456名ニシテ陽性率ハ39.3±1.8%ナリ.之ヲ學年別ニ見ルトキハ第4學年稍々高率ヲ示スモ大體學年ト平行シテ増加スルヲ認ム.

第1目 「ツベルクリン」皮内反應ノ陽性率及ビ學年別成績(第1表)

總人員751名中陽性人員295名,陰性人員ハ

第1表 學年別「ツ」反應成績

學年	年平均年齢月	人員	陰性人員	陽性人員					陽性率
				5-10mm	11-20mm	21-30mm	30mm以上	計	
1學年	13.5	159	101	9	15	22	12	58	36.5±3.8
2學年	14.5	158	101	6	17	25	9	57	36.1±3.8
3學年	15.5	154	96	5	18	17	18	58	37.7±3.9
4學年	16.4	151	80	3	31	26	11	71	47.0±4.1
5學年	17.5	129	78	2	12	22	15	51	39.5±4.3
計		751	456	25	93	112	65	295	39.3±1.8

第2目 出身小學校別成績(第2表)

出身小學校ヲ金澤市,富山市,福井市,高岡市ノ4市小學校,上記4市ヲ除キタル北陸3縣ノ郡部小學校及ビ北陸以外ノ他府縣小學校ノ三ツニ區別シ「ツベルクリン」皮内反應ヲ觀察セリ.下級學年ニ於テハ市部出身者ノ陽性率ハ郡

部出身者ノ陽性率ヨリモ僅カニ高率ナルモ,上級學年ニ於テハ市部出身者ニ比シ郡部出身者ノ陽性率著明ニ増加シ,陽性率ハ下級學年ト逆轉スルヲ認ム.他府縣出身者ハ上級學年モ下級學年モ略同率ニシテ北陸3縣出身者ヨリモ高率ナリ.

第2表 出身小學校別「ツ」反應成績

(上級生(4,5學年),下級生(1,2,3學年))

出身小學校 上級生 下級生別	市			郡			他		
	人員	陽性人員	陽性率	人員	陽性人員	陽性率	人員	陽性人員	陽性率
下級生	333	122	36.6±2.6	188	41	34.7±3.3	20	10	50.0±11.2
上級生	216	92	42.6±3.4	50	23	46.0±7.0	14	7	50.0±13.3
計	38.9±2.1			38.1±3.7			50.0±8.6		

市=金澤市,富山市,福井市,高岡市

郡=石川,富山,福井3縣ヨリ上記4市ヲ除キタル郡

他=上記3縣以外ノモノ

第3目 父兄ノ職業別成績(第3表)

生徒ヲ其ノ父兄ノ職業ニヨリ表ノ如ク分類セル。「ツベルクリン」皮内反應陽性率ハ自由業

43.9±6.1%及ビ商工43.4±3.5%ニシテ最大,勤人36.1±2.8%ニシテ最小,農業38.6±6.7%及ビ無職38.0±4.3%ニシテ中間ニ位ス.

第 3 表 職業別「ツ」反應成績

職業 學年	農 業			商 工			勤 人			自 由 業			無 業		
	人員	陽性人員	陽性率	人員	陽性人員	陽性率	人員	陽性人員	陽性率	人員	陽性人員	陽性率	人員	陽性人員	陽性率
1 學年	24	9	37.5 ± 9.7	42	15	35.7 ± 7.4	68	24	35.3 ± 5.8	14	6	42.9 ± 13.2	11	4	36.4 ± 14.5
2 學年	7	4	57.1 ± 18.7	47	15	31.9 ± 6.8	62	26	41.9 ± 6.3	16	6	37.5 ± 12.1	26	6	23.1 ± 8.3
3 學年	9	3	33.3 ± 15.7	43	16	37.2 ± 7.3	59	19	32.2 ± 6.1	13	6	46.2 ± 13.8	30	14	46.7 ± 9.1
4 學年	9	6	66.7 ± 15.7	42	25	59.5 ± 7.7	58	22	37.9 ± 6.4	13	6	46.2 ± 13.8	29	12	41.4 ± 9.1
5 學年	8	0	0	31	18	58.1 ± 8.9	55	18	32.7 ± 6.3	10	5	50.0 ± 15.8	25	10	40.0 ± 9.8
計	57	22	38.6 ± 6.7	205	89	43.4 ± 3.5	302	109	36.1 ± 2.8	66	29	43.9 ± 6.1	121	46	38.0 ± 4.3

第 4 目 既往症別成績(第 4 表及ビ第 5 表) 而シテ此ノ中「ツベルクリン」皮内反應陽性者 39 名ニシテ其ノ陽性率ハ 62.9±6.1%ナリ。カ、ル 直接間診ニヨル既往症中結核性並ビニ結核ノ 既往症ナキモノノ陽性率ハ 37.2±1.8%ニシテ既 疑ヒアルモノハ 62 名ニシテ全體ノ 8.2%ニ當ル。

第 4 表 既往症別「ツ」反應成績

既往症 學年	有 ル モ ノ			無 キ モ ノ		
	人員	陽性人員	陽性率	人員	陽性人員	陽性率
1 學年	11	8	72.7±13.4	148	50	33.8±3.9
2 學年	9	6	66.7±15.7	149	51	34.2±3.9
3 學年	11	6	54.5±15.0	143	52	36.4±4.0
4 學年	17	10	58.8±11.9	134	62	45.5±4.3
5 學年	14	9	64.2±11.6	115	42	36.5±4.5
計	62	39	62.9± 6.1	689	256	37.2±1.8

第 5 表 既往症病名別成績

病 名	人 員	百 分 比		陽 性	陰 性	陽 性 率
		62名ニ 對シ	全員ニ 對シ			
肺尖カタル	4	6.5	0.5	0	4	0
肺浸潤	4	6.5	0.5	3	1	75.0
肋膜炎	25	40.3	3.3	21	4	84.0
肺門腺腫脹	21	33.9	2.8	11	10	52.4
腹膜炎	8	12.9	1.1	5	3	62.5
頸腺腫脹	2	3.2	0.3	0	2	0
カリエス	1	1.6	0.1	0	1	0
計	65 3名重復			40 1名重復	25 2名重復	

往症アルモノノ陽性率ハナキモノノ陽性率ニ比シテ遙カニ高率ヲ示シ、之ヲ學年別ニ觀ルニ各學年スベテ同様ノ關係ニアルヲ認ム。次ニ既往症ヲ有スル62名中3名ハ2病名ヲ有スルヲ以テ合計65件ノ病名ヲ分類セル第5表ノ如ク肋膜炎25名ニシテ最モ多ク62名中ノ40.3%、全員ノ3.3%ニ當リ、肺門腺腫脹ハ21名62名中ノ33.9%、全員ノ2.8%ニ相當シ、腹膜炎8名、肺尖カタル4名、肺浸潤4名、頸腺腫脹2名、「カリエス」1名ノ順ナリ。此ノ病名別ニヨル「ツベルク

リン」皮内反應ノ陽性率ハ肋膜炎84.0%ニシテ最高ヲ示シ、次ニ肺浸潤75.0%、腹膜炎62.5%、肺門腺腫脹52.4%ノ順ナリ。肺尖カタル、頸腺腫脹、「カリエス」等ハ陽性率0ナリ。

第5目 肺活量トノ關係(第6表)

平均肺活量ニ於テ陽性者ハ2961、陰性者ハ2960ニシテ兩者間ニ差ヲ認ムルコト能ハズ。之ヲ各學年別ニ見ルモ平均值、最大值、最小値殆ンド差ナン。

第6表 肺活量トノ關係

學年	陽性				陰性			
	人員	平均值	最大值	最小値	人員	平均值	最大值	最小値
1學年	57	2179	3000	1300	100	2249	3250	1100
2學年	57	2929	4100	1400	101	2724	4750	1300
3學年	58	3027	4150	1800	96	3012	4100	1820
4學年	71	3328	4900	1840	80	3346	4700	2200
5學年	51	3348	4240	2360	78	3470	4560	1980
計		2961				2960		

第2項 「レントゲン」線檢査成績

第1目 「レントゲン」線所見

(第7表及ビ第8表)

「レントゲン」線寫眞或ハ透視ニヨル所見ハ第7表ノ如ク正常ト思ハレルモノ265名(35.3±1.7%)ニシテ變化ヲ認メタルモノ486名(64.7±1.7%)ナリ。之ヲ學年別ニ觀ルトキモ略同率ヲ示シ、學年ニヨル差異ハ著明ニアラズ。

第1學年ノ全部159名及ビ第2學年以上ノモノニシテ「レントゲン」透視及ビ理學的檢査、既

往症等ヨリシテ疑ハシキモノ100名、合計259名ニ寫眞撮影ヲナシタリ。其ノ中著明ナル變化ハ初期症狀群ノ比較的新シキモノ2名ニシテ、硬性初期症狀群14名、其ノ中「ツベルクリン」皮内反應陰性ニシテ陽性アネルギート考ヘラルモノ5名ナリ。肺門ニ於ケル結核性變化ヲ有スルモノノ中活動性ト思ハルモノ14名、肺野ニ浸潤ヲ有スルモノ36名、中滲出型ト思ハルモノ7名、空洞ヲ有スルモノ3名、肋膜ノ著明ナル肥厚ヲ有スルモノ10名ナリ。

第7表 「レ」線所見

學年	レ線所見 總人員	正常ト思ハレルモノ		變化ヲ認メタルモノ	
		人員	%	人員	%
1學年	159	55	34.6±3.8	104	65.4±3.8
2學年	158	57	36.1±3.8	101	63.9±3.8
3學年	154	55	35.7±3.9	99	64.3±3.9
4學年	151	51	33.8±3.8	100	66.2±3.8
5學年	129	47	36.4±4.2	82	63.6±4.2
計	751	265	35.3±1.7	486	64.7±1.7

第 8 表 「レ」線寫眞所見

學 年	全員	正常	異常	横隔膜 態 着	毛様線	石灰 化電	肺門淋 巴腺腫 脹(硬)	初期變 化群 (硬)	肋膜 肥厚	肺門淋 巴腺腫 脹(軟)	初期變 化群 (軟)	浸潤	空洞
1 學 年	159	55	104	3 2※	0	38 6※	53 12※	5 1※	4 1※	8 3※	2	16 1※	1
2 學 年	20	3	17	5 3※	0	4 1※	12 7※	1 1※	1	2 1※	0	5 1※	1
3 學 年	30	6	24	10 4※	1 1※	5 1※	15 10※	3 1※	1	1	0	5 1※	1
4 學 年	24	2	22	5 3※	0	6 3※	6 1※	4	1	0	0	7	0
5 學 年	26	6	20	8 3※	0	4 1※	7 4※	1	3	2 1※	0	3	0
計	259	72	187	31 15※	1 1※	57 12※	93 34※	43 1※	10 1※	14 5※	2	36 3※	3

第 2 目 「レントゲン」線所見「ツベル
クリン」皮内反應 (第 9 表及ビ第 10 表)

「ツベルクリン」皮内反應ト「レントゲン」線所
見トノ關係ヲ見ルニ 第 9 表ニ於ケルガ如ク「レ
ントゲン」線所見ニ變化ヲ認メタルモノノ陽性

率ハ43.6±2.2%ニシテ正常ト思ハル、モノノ陽
性率 31.3±2.8%ニ比シ稍々大ナリ。

之ヲ學年別ニ觀ルトキ多少ノ相違ハ存スルモ
何レモ變化ヲ認メタルモノニ於テ高率ヲ示セ
リ。而シテ第 10 表ニ於ケルガ如ク陽性者中ニ於

第 9 表 「ツ」反應トレ線所見 (其ノ 1)

レ線所見 學 年	正常ト思ハレルモノ				變化ヲ認メタルモノ			
	人員	陰性 人員	陽性 人員	陽 性 率	人員	陰性 人員	陽性 人員	陽 性 率
1 學 年	55	47	8	14.5±4.7	104	54	50	48.1±4.9
2 學 年	57	39	18	31.6±6.2	101	62	39	38.6±4.8
3 學 年	55	37	18	32.7±7.0	99	59	40	40.4±4.9
4 學 年	51	27	24	47.1±7.0	100	53	47	47.0±5.0
5 學 年	47	32	15	31.9±6.8	82	46	36	43.9±5.5
計	265	182	83	31.3±2.8	486	274	212	43.6±2.2

第 10 表 「ツ」反應トレ線所見 (其ノ 2)

ツ反應 學 年	陰 性				陽 性			
	人員	レ線上正 常ト思 ハレル モノ	レ線上變 化ヲ認 メタル モノ	變化ヲ認 メタル モノノ 率	人員	レ線上正 常ト思 ハレル モノ	レ線上變 化ヲ認 メタル モノ	變化ヲ認 メタル モノノ 率
1 學 年	101	47	54	53.5±5.0	58	8	50	86.2±4.5
2 學 年	101	39	62	61.4±4.8	57	18	39	68.4±6.2
3 學 年	96	37	59	61.5±5.0	58	18	40	69.0±6.1
4 學 年	80	27	53	66.2±5.3	71	24	47	66.2±5.6
5 學 年	78	32	46	59.0±5.6	51	15	36	70.6±6.4
計	456	182	274	60.1±2.3	295	83	212	71.9±2.6

テ「レントゲン」線上變化ヲ認メタルモノハ 71.9 ± 2.6% = シテ陰性者中「レントゲン」線所見 = 變化ヲ認メシモノハ 60.1 ± 2.3% ナリ。即チ陽性者 = 於テハ陰性者 = 於ケルヨリ「レントゲン」線所見上變化ヲ認ムルモノ多ク之ヲ各學年別 = 見ルトキモ略同様ナリ。

第3項 赤血球沈降速度

第1目 赤血球沈降速度ト「レントゲン」

線所見(第11表及ビ第12表)

赤血球沈降速度ノ正常値ヲ示スモノハ 659 名 = シテ全員ノ 87.7 ± 1.3%, 促進者ハ 92 名 = シテ

12.3 ± 1.3% = 相當ス。赤血球沈降速度ト「レントゲン」線所見トノ關係ヲ見ル = 第11表ノ如ク學年別 = 見ルトキハ多少ノ相違アルモ第1學年ヨリ第5學年ヲ通ジ見ルトキハ正常者 = 於テ變化ヲ認ムル率ヨリ促進者 = 變化ヲ認ムル率ノ方僅カ = 大ナルヲ知ル。而シテ第12表ノ如ク「レントゲン」線所見上正常ト思ハルモノ = 於ケル促進者ノ率ヨリ變化ヲ認メタルモノ = 於ケル促進者ノ率大 = シテ學年別 = 見ルトキモ略同様ナル關係 = アリ。

第11表 赤沈ト「レ」線所見 (其ノ1)

赤沈 學年	正 常 (1-12mm)				促 進 (13mm以上)			
	人員	レ線上正 常ト思ハ ルモノ	レ線上變 化ヲ認メ タルモノ	變化ヲ認 メタルモ ノノ率	人員	レ線上正 常ト思ハ ルモノ	レ線上變 化ヲ認メ タルモノ	變化ヲ認 メタルモ ノノ率
1 學年	130	46	84	64.6 ± 4.9	29	9	20	69.0 ± 8.6
2 學年	142	53	89	62.7 ± 4.1	16	4	12	75.0 ± 10.8
3 學年	130	49	81	62.3 ± 4.3	24	6	18	75.0 ± 8.8
4 學年	146	49	97	66.4 ± 3.9	5	2	3	60.0 ± 21.9
5 學年	111	41	70	63.1 ± 4.6	18	6	12	61.7 ± 11.5
計	659	238	421	63.9 ± 1.9	92	27	65	70.7 ± 4.7

第12表 赤沈ト「レ」線所見 (其ノ2)

レ線 所見 學年	正 常ト思ハルモノ				變 化ヲ認メタルモノ			
	人員	赤沈正常 (1-12mm)	赤沈促進 (13mm以上)	促進者ノ率	人員	赤沈正常 (1-12mm)	赤沈促進 (13mm以上)	促進者ノ率
1 學年	55	46	9	16.4 ± 5.0	104	84	20	19.2 ± 3.9
2 學年	57	53	4	7.0 ± 3.4	101	89	12	11.9 ± 3.2
3 學年	55	49	6	10.9 ± 4.2	99	81	18	18.1 ± 3.9
4 學年	51	49	2	3.9 ± 2.7	100	97	3	3.0 ± 1.7
5 學年	47	41	6	12.8 ± 4.9	82	70	12	14.6 ± 3.9
計	265	238	27	10.2 ± 1.9	486	421	65	13.4 ± 1.5

第2目 赤血球沈降速度ト「ツベルクリン」

皮内反應(第13表及ビ第14表)

赤血球沈降速度ト「ツベルクリン」皮内反應トノ關係ヲ見ル = 第13表 = 示スガ如ク赤血球沈降速度正常者 = 於ケル「ツベルクリン」皮内反應陽

性率 38.2 ± 1.9% = 比シ 促進者 = 於ケル陽性率ハ 46.7 ± 5.2% = シテ後者ノ方大ナリ。又第14表 = 見ルガ如ク陽性者中ノ促進者ノ率 14.6 ± 2.1% = 陰性中ノ促進者ノ率 10.7 ± 1.4% = 比シテ稍々多キ傾向ヲ有ス。

第13表 「ツ」反應ト赤沈 (其ノ1)

赤沈 學年	正 常 (1-12mm)				促 進 (13mm以上)			
	人員	「ツ」反應 陰性人員	「ツ」反應 陽性人員	陽 性 率	人員	「ツ」反應 陰性人員	「ツ」反應 陽性人員	陽 性 率
1 學 年	130	86	44	33.8±4.1	29	15	14	48.3± 9.3
2 學 年	142	93	49	34.5±4.0	16	8	8	50.0±12.5
3 學 年	130	81	49	37.7±4.3	24	15	9	37.5± 9.9
4 學 年	146	79	67	45.9±4.1	5	1	4	80.0±17.9
5 學 年	111	68	43	38.7±4.6	18	10	8	44.4±11.7
計	659	407	252	38.2±1.9	92	29	43	46.7± 5.2

第14表 「ツ」反應ト赤沈 (其ノ2)

「ツ」 反應 學年	陰 性				陽 性			
	人員	赤沈正常 (1-12mm)	赤沈促進 (13mm以上)	促進者ノ率	人員	赤沈正常 (1-12mm)	赤沈促進 (13mm以上)	促進者ノ率
1 學 年	101	86	15	14.9±3.5	58	44	14	24.1±5.6
2 學 年	101	93	8	7.9±2.7	57	49	8	14.0±4.6
3 學 年	96	81	15	15.6±3.7	58	49	9	15.5±4.7
4 學 年	80	79	1	1.2±1.2	71	67	4	5.6±2.7
5 學 年	78	68	10	12.8±3.8	51	43	8	15.7±5.1
計	456	407	49	10.7±1.4	295	252	43	14.6±2.1

第3目 既往症ト赤血球沈降速度(第15表)

既往症ト赤血球沈降速度トノ關係ヲ見ルニ各
學年區々ニシテ一定ノ關係ヲ認ムルコト能ハズ

總計ニ於テハ既往症ヲ有スルモノ62名中10名ノ
促進者アリ, 16.1%ニ相當シ, 無キモノ689名
中促進者82名, 11.9%ニ對シ稍々高率ヲ示セリ。

第15表 既往症別赤沈速度

既往症 學年	有 ス ル モ ノ			無 キ モ ノ		
	人員	促進 者數	促進者ノ率	人員	促進 者數	促進者ノ率
1 學 年	11	3	27.3±13.4	148	26	17.6±3.1
2 學 年	9	1	11.1±10.5	149	15	10.1±2.5
3 學 年	11	5	46.4±15.0	143	19	13.3±2.8
4 學 年	17	0	0	134	5	3.7±1.6
5 學 年	14	1	7.1± 6.9	115	17	13.9±3.2
計	62	10	16.1± 4.7	689	82	11.9±1.2

第4項 結核菌検査

全員751名ニ對シ, 生理的食鹽水ヲ以テ含嗽
セシメ此ノ含嗽水ヨリ結核菌培養ヲ施行セルモ
1名ノ菌陽性者ヲモ發見セズ。

第5項 要注意者(第16表)

1) 肺野ニ浸潤ヲ有スルモノ, 2) 肺門ニ變
化アリ, 血沈1時間値16mm以上ノモノ, 3)
肺門陰影擴大シ且ツ硬度軟ニシテ「ツベルクリ

ン」皮内反應陽性ナルモノ、4) 肋膜肥厚著明ナルモノ、5) 「ツペルクリン」皮内反應陽轉者ヲ要注意者トナストキハ74名トナレリ。然レド

モ結核菌檢査成績ノ結果ヨリ見ルトキハ何レモ感染源トハ認メ難シ。

第16表 要注意者

學年	姓名	年齢	既往症	「ツ」反應	赤沈	體温	肺活量	理學的所見	「レ」線所見
1學年	織田	13.7		7×7	22 46	37.2	2530	右肺尖部呼吸音鋭	肺門淋巴腺腫脹(硬)
〃	五十嵐	13.5		27×21	4 8	37.6	2240		左肺=初期變化群兩極形成期
〃	直山	13.4		8×7	12 18	37.4	2220	右後中央及ビ下部呼吸音鋭	肺門淋巴腺腫脹(軟) 右肺上野=初期變化群(硬)
〃	山下	13.6	肋膜炎	22×22	14 33	37.1	2040	右下濁音横隔膜ノ運動惡シ 右上部呼吸音鋭	右下=指頭大ノ軟カキ浸潤
〃	熊谷	13.7		0	22 80	37.7	2600		肺門淋巴腺腫脹(軟) 右肺尖部=浸潤
〃	有松	14.1		30×48	15 34	37.3	2150	右肺尖部呼吸音鋭	肺門淋巴腺腫脹(硬)石灰(+)
〃	石崎	17.5	肋膜炎	45×50	13 25	36.5	2360	右肺尖部呼吸音鋭	左肺門淋巴腺腫脹(中)
〃	谷	13.7		0	14 29	36.1	1760		兩肺尖部=硬キ浸潤
〃	越野	13.11	肺門腫脹	0	35 68	37.7	1820		初期變化群兩極形成期
〃	新佐	13.6		17×30	14 36	37.2	1840		肺門淋巴腺腫脹(中)
〃	馬場	13.3		15×15	4 12	37.1	2020		左肺尖部浸潤、肺門淋巴腺腫脹(硬)
〃	新家	17.8		15×15	11 13	38.1	1900	右上呼吸音鋭	左肺尖=軟キ浸潤、右下=指頭大ノ浸潤中=空洞アリ 兩肺門腺腫脹(中)
〃	越澤	13.6	肋膜炎	25×30	9 22	37.4	1840	左下濁音呼吸音弱シ	肋膜肥厚癒着
〃	本村	12.9	肺浸潤	23×19	12 26	37.7	1740	右上移行性呼吸音 右中央呼吸音鋭	右中央=肋膜肥厚、兩側上部=硬キ浸潤
〃	村	13.3	感冒	0	5 9	36.8	1850		左下増殖性浸潤、肺門淋巴腺腫脹(硬)
〃	桐生	13.3		18×16	22 46	37.7	2200		肺門淋巴腺腫脹(軟) 左下=浸潤
〃	小西	13.10	感冒	0	36 50	37.6	1820	右後中央呼吸音鋭	左肺門=石灰2個
〃	正木	13.1	肺炎	25×28	3 8	37.2	2240	右上呼吸音鋭	左中央=浸潤(硬)、右肺門=石灰
〃	西村	13.1	感冒	22×16	4 10	37.0	2300		肺門淋巴腺腫脹(中)石灰アリ右上=浸潤(硬)
〃	北村	12.11		B(+) 26×26	7 15	37.5	2600		肺門淋巴腺腫脹(軟)基ダ大ナリ
〃	生垣	13.1		30×20	31 60	36.9	2000	右上部呼吸音鋭	左肺門淋巴腺腫脹(中)
〃	福田	12.9		0	30 56	38.9	2200	右後中央移行性呼吸音	左肺上野硬キ増殖性浸潤
〃	山田	13.7		0	20 45	36.8	2400		左肺門淋巴腺腫脹(中)
〃	寶達	13.2		0	2 5	37.1	1400		肺門淋巴腺腫脹(中)右上浸潤
〃	室本	13.3	肺炎	B(+) 42×30	11 26	36.4	2200		左中央=50錢銀貨大ノ軟カキ浸潤
〃	蓮沼	12.11		28×20	12 29	37.6	2100		肺門淋巴腺腫脹(軟) 右上=硬キ増殖性浸潤

〃	桶口	13.0		0	30 61	36.7	2800	右上移行性呼吸音	肺門淋巴腺腫脹(中)
〃	大野	13.7	感冒	27×20	13 32	37.2	2100	左上呼吸音鋭	肺門淋巴腺腫脹(軟)
〃	末井	12.1	感冒	B(+) 68×41	20 42	37.6	1800		右上及下ニ増殖性浸潤
〃	福光	13.0	肺炎	0	10 25	36.6	2100	兩肺尖部呼吸音鋭	左中央及ビ右下ニ硬キ増殖性浸潤
2學年	高野	14.1	肺門淋巴腺腫脹	25×15	4 9	37.7	3000	右上呼吸音鋭	兩上部ニ硬キ浸潤, 肺門石灰
〃	松岡	13.9	感冒	18×19	5 14	36.3	3050	右肺尖部呼吸音鋭	兩側肺門淋巴腺腫脹(軟)
〃	寺尾	14.8	感冒	0	15 36	37.8	2800	左上移行性呼吸音 右上呼吸音鋭	右肺門淋巴腺腫脹(中) 右上ニ硬キ浸潤
〃	今城	13.11	肺浸潤感 胃	B(+) 46×37	4 11	37.3	2500		肺門淋巴腺腫脹(軟) 左中央ニ浸潤, 中ニ空洞アリ
〃	紺谷	14.5		0	18 43	36.5	2700		肺門淋巴腺腫脹
〃	木村	13.10	感冒	0	24 52	37.7	1800	兩下部呼吸音鋭	肺門淋巴腺腫脹
〃	西谷	14.7		20×26	19 34	37.1	3000		兩側肺門淋巴腺腫脹
〃	白井	13.10		0	6 12	36.4	3000	右上移行性呼吸音	肺門淋巴腺腫脹(硬)左上硬キ索狀浸潤, 左横隔膜癒着
〃	橋田	14.11		19×23	13 26	37.3	2450		右肺門淋巴腺腫脹(軟) 右横隔膜癒着
〃	竹田	14.2	肺門淋巴腺腫脹	B(+) 31×47	11 27	37.3	2900		左中央ニ浸潤, 右横隔膜癒着, 右上初期變化群(硬)
〃	田中	14.2		40×33	16 39	37.1	2500	右肺尖呼吸音鋭	右肺門淋巴腺腫脹(硬)
〃	立村	13.9		20×32	8 26	37.4	2200	右肺上呼吸音鋭	右肺門淋巴腺腫脹(中) 右肋膜肥厚, 毛様線
3學年	谷本	15.6		B(+) 40×52	2 6	37.5	4050		右上野ニ浸潤
〃	越原	16.6		N(+) 82×62	17 39	37.1	4150		兩側肺門淋巴腺腫脹(硬)
〃	川越	15.2		1×2	8 17	37.0	2940		兩側ニ硬キ浸潤
〃	森本	15.1		2×1	16 32	37.2	2740		兩側肺門ニ石灰
〃	長江	15.3	肺門淋巴腺腫脹	28×17	19 37	37.5	2540	兩肺上野移行性呼吸音	肺門淋巴腺腫脹(硬) 肋膜肥厚右毛様線
〃	新家	15.0		0	19 38	37.4	3000		兩肺門淋巴腺腫脹(硬)
〃	北山	15.5	肋膜	0	35 73	36.6	2760		肺門淋巴腺腫脹(硬) 右横隔膜癒着
〃	廣里	14.11		18×14	19 42	37.4	1900	右下濁音呼吸音弱	左肺門淋巴腺腫脹(軟) 右肺ニ初期變化群
〃	山本	15.3	肺門淋巴腺腫脹	0	7 20	37.4	1900	兩肺尖部呼吸音鋭	兩肺門淋巴腺腫脹(硬)横隔膜癒着, 兩肺ニ硬キ浸潤空洞(+)
〃	由雄	15.4	肺炎	0	18 38	36.5	2220	右上呼吸音鋭	兩肺門淋巴腺腫脹
〃	堂向	15.11		2×2	5 15	36.7	2550		右肺門淋巴腺腫脹(硬)左上中央及ビ右下ニ浸潤, 右横隔膜癒着
〃	川崎	15.3		21×20	18 30	36.7	3000		兩肺門淋巴腺腫脹
〃	山元	14.9	感冒	0	20 43	37.0	3500		兩肺門淋巴腺腫脹(硬)
〃	長田	14.10		B(+) 50×38	2 6	36.8	3700		左肺門淋巴腺腫脹(硬) 左肺尖小斑點狀浸潤
〃	町居	17.7		50×35	27 50	36.7	3350		兩肺門淋巴腺腫脹
4學年	蓮花	18.2	肋膜	24×24	4 8	37.0	2900		右上浸潤, 右横隔膜癒着
〃	北川	15.11		25×25	5 12	37.2	2600	左上呼吸音鋭	右浸潤(硬)

〃	宇都宮	17.6	肋膜	0	6 12	36.3	3800	右上呼吸音鋭	左下浸潤(硬)右横隔膜癒着
〃	今井	16.10		B(+) 25×19	55 81	37.8	4000		兩肺門淋巴腺腫脹
〃	笹野	16.1	肋膜	17×17	7 18	36.9	3020	右肺尖部呼吸音鋭 右下呼吸音粗裂	右上, 左上, 左中=浸潤(軟) 右横隔膜癒着
〃	石田	16.9	肋膜	7×7	9 23	36.7	3960	右肺尖部呼吸音鋭 後右下濁音	兩肺門淋巴腺腫脹(硬)石灰(+) 右横隔膜癒着
〃	室橋	16.11	肺門淋巴 腺腫脹	33×25	3 5	36.9	4900		兩側=浸潤(硬)
〃	宇津	15.11		20×23	7 15	37.7	3200	右上移行性呼吸音	右中央=浸潤(硬)
〃	大木	15.10	肺門淋巴 腺腫脹	0	4 9	36.8	2900	右上呼吸音鋭	浸潤(硬)
5學年	吉田	17.1	肺炎肺門 淋巴腺腫 脹膿胸	0	8 19	37.3	2500	左呼吸音鋭 右下濁音	左肺門淋巴腺腫脹(硬) 右肋膜肥厚, 横隔膜癒着
〃	本濃	16.11		23×20	19 45	36.8	3000		左肺門=石灰
〃	河野	17.11	肋膜	21×20	6 16	37.3	3740	右移行性呼吸音	右下=拇指頭大ノ浸潤兩肺門淋 巴腺腫脹(軟)右横隔膜癒着
〃	南	18.4	肋膜, 感 冒	40×31	16 37	36.9	2920		兩肺門淋巴腺腫脹
〃	笠島	17.4	肋膜	32×28	17 40	37.1	3100	右上呼吸音鋭	兩肺門淋巴腺腫脹(硬) 右上=拇指頭大ノ浸潤
〃	石戸谷	18.7	肋膜, 感 冒	5×5	3 6	36.7	3900		右=小浸潤(硬)
〃	松野	18.6		0	19 45	37.0	3800	右肺尖部呼吸音鋭	左肺門=石灰
〃	松倉	16.9		20×16	23 56	37.1	3300		兩肺門淋巴腺腫脹

第4章 考 察

第1項 「ツベルクリン」皮内反應

「ツベルクリン」皮内反應ガ其ノ年齢ト平行シテ其ノ陽性率ノ増加スルハ諸家ノ一致セル結論デアル。余等ノ成績モ亦學年ト共ニ即チ年齢ト共ニ増加スルヲ認ム。而シテ此ノ平均陽性率39.3±1.8%ハ金澤市ノ男子小學校兒童ニ施行セル上田, 森田, 河村⁽⁴⁾ノ21.05±2.95%, 有馬(宗), 安達等⁽⁵⁾ノ30.7%, 金原, 今井等⁽⁶⁾ノ34.10±2.06%ヨリハ高く, 金澤市内高等専門學校生徒ニ施行セル横井等⁽³⁾ノ73.5±2.0%, 芦澤等⁽⁷⁾ノ79.4%ヨリハ低シ。即チ兩者ノ中間ニ位ス。今他地方ノ中等學校ニテ檢索セル成績ヲ見ルニ有馬(英), 山田⁽⁸⁾ハ札幌市内男子中等學校ニ於テ13—15歳ハ47.9%, 16—17歳ハ58.6%, 18—19歳ハ77.3%, 20—21歳ハ70.9%, 22—25歳ハ83.6%, 26歳以上ハ75.0%ニシテ平均68.9%ナリト。菅原⁽⁹⁾ハ東京市内男子中等學校ニ於テ12歳ヨリ20歳ニ及ブ1047名ニツキ陽

性率57.9%ヲ得。日置(達), 井下等⁽¹⁰⁾ハ大阪市内男子師範學校寄宿舎生徒230名ニツキ検査シ, 16—18歳92.0%, 19—20歳93.3%, 平均92.5%ナリト報告ス。同ジク大阪市内ノ中等學校ニ就テ池内, 有馬等⁽¹¹⁾ハ男子師範學校ニ於テ77.72%, 中學校ニ於テハ44.20%ナリト。砂川⁽¹²⁾ハ奈良縣ニ於テ男子師範學校ニ於テハ57.8%, 商業學校ニ於テ46.8%, 中學校ニ於テ43.2%ナリト。滿鐵衛生課⁽¹³⁾ニテハ男子中等學校生徒ニ就テハ56.5%ノ陽性率ヲ示セリ。武智⁽¹⁴⁾ハ香川縣下ニ於ケル中等學校ノ檢索ニ於テ師範學校ニ於テハ50.45%, 商業學校ニ於テ27.35%, 中學校ニ於テ32.09%ナル陽性率ヲ出セリ。今村⁽¹⁵⁾ハ阪神間某中等學校ニ於テ63.1%ノ陽性率ヲ示セリ。小田⁽¹⁶⁾ハ臺灣ニ於テ内地人男子中等學生ハ45.8%, 本島人男子中等學生ハ49.4%ナリト。同ジク北陸地方ノモノトシテ高畠, 加藤⁽¹⁷⁾ハ福井縣下男子中等學校生徒

ニツキ 42.3%ナリト報告ス。余等ノ今回得タル成績ハ以上ニ記載セル全國中等學校ノ陽性率ニ比シ特ニ高率ナリトハ考ヘラレズ。ムシロ低率ナリ。

市町村別成績ニ關シテハ陽性率ハ市出身者ニ於テハ町村出身者ニ比シ大ナルコト、或ハ大都市出身者ハ小都市出身者ヨリ大ナルコトハ一般ニ意見ノ一致セル所ナリ（貴島、舩松⁽¹⁸⁾、瀧本、深谷⁽¹⁹⁾、安宅⁽²⁰⁾、佐々木⁽²¹⁾、杉山、伊藤⁽²²⁾、中本⁽²³⁾、山田(光)⁽²⁴⁾、田中等⁽²⁵⁾、滿鐵衛生課⁽¹³⁾、横井等⁽³⁾）。

余等ノ成績ニ於テハ下級學年ニ於テハ市小學校出身者ハ郡小學校出身者ニ比シ僅カニ高率ナルモ、上級學年ニ於テハ市小學校出身者ニ比シ郡小學校出身者ノ陽性率著明ニ増加シ下級學年ト逆轉スルヲ認ム。他府縣出身者ハ上級學年、下級學年共ニ略同率ニシテ北陸3縣出身者ヨリ大ナリ。此ノ他府縣出身者ノ父兄ハ多ク官吏ニシテ度々轉任ヲナシ、大都市等ニ居居スルコトモアリ結核感染ノ機會多キモノナルヲ以テスルモ其ノ陽性率多キハ當然ナリ。

父兄ノ職業別成績ニ關シテハ古屋等⁽²⁶⁾ハ無職最大ニシテ公務、商工、農業ノ順ニ減少スト報告ス。横井⁽³⁾ハ最大ナルハ自由業、最小ナルハ商工及ビ無職ニシテ、農業及ビ勤人ハ其ノ中間ニ位スト。余等ノ成績ニ於テハ自由業及ビ商工最大、勤人ハ最小、農業及ビ無職ハ中間ニアリ。調査對象ノ如何ニヨリテ一様ナラザルモノノ如シ。

既往症別成績ニ就テハ横井等⁽³⁾ハ結核性既往症ヲ有スルモノノ陽性率ハ無キモノノ陽性率ヨリ大ナリト報告ス。余等ノ檢診ニ於テモ結核性既往症ヲ有スルモノノ陽性率ハ $62.9 \pm 6.1\%$ 、無キモノノ陽性率ハ $37.2 \pm 1.8\%$ ニシテ著明ナル變化ヲ認ムルヲ得。

肺活量ニ關シテハ「ツベルクリン」皮内反應トノ間ニ特別ナル關係ヲ認ムルコト能ハザリキ。横井等⁽³⁾モ陽性者ニ比シ陰性者ニ於テ良好ナルガ如キモ明確ナル差異アル所見ハ得難カラントナス。

第2項 「レントゲン」線所見

「レントゲン」線所見ニヨル結核性變化ニ關シテハ其ノ撮影方法及ビ讀影ノ相違ニヨリ其ノ成績ハ諸家ニヨリ異レリ。然レドモ「ツベルクリン」皮内反應トノ關係ヲ見ルニ堂野前等⁽²⁷⁾ハ看護婦ニツキ「ツベルクリン」皮内反應陽性者13例中「レントゲン」線寫眞ニテ石灰沈着、肺門部陰影増大等ノ異常所見ヲ認メラシモノハ10例、陰性者25名中同様ノ所見アリシモノハ7例ナリト報告ス。氏家⁽²⁸⁾ハ海軍兵員ニ就テ陽性者ノ全例ニ陰性者ノ90.9%ニ變化ヲ認メタリ。瀧本、深谷⁽¹⁹⁾ハ看護婦ニツキ陽性者ハ53.3%ニ「レントゲン」線所見ニ異常ヲ認メ、陰性者ニ於テハ20.5%ニ變化ヲ認メタリ。安宅⁽²⁹⁾モ看護婦ニツキテ陽性者ノ25.7%、陰性者ノ5.2%ニ病變ヲ見タリ。横井等⁽³⁾ハ専門學校生徒ニツキ陽性者ノ89.5%ニ、陰性者ノ73.8%ニ「レントゲン」線所見異常ヲ認メタリ。此等ニヨルモ「レントゲン」線所見ニ異常ヲ認ムルモノハ陽性者ニ多ク陰性者ニハ少ナシ。余等ノ成績モ亦陽性者ニ「レントゲン」線寫眞異常ヲ認ムル率ハ陰性者ニ於ケル率ヨリ高く、又逆ニ「レントゲン」線寫眞ニ異常ヲ認ムルモノノ陽性率ハ「レントゲン」線寫眞正常者ニ於ケル陽性率ヨリ大ナリ。

第3項 赤血球沈降速度

赤血球沈降速度ト「レントゲン」線所見トノ間ニ密接ナル關係アルハ諸家ノ認ムル所ナリ。池内、有馬⁽¹¹⁾モ赤血球沈降速度正常(1—10)ナルモノニ就テ疑活動性、活動性結核發見率ハ極僅カナルモ赤血球沈降速度強度促進セルモノニ於テハ其ノ發見率ハ著明ニ高クナルヲ認ムト。余等ノ成績ニ於テモ促進者ニ於テ變化ヲ認ムル率大ナリ。

赤血球沈降速度ト「ツベルクリン」皮内反應トノ關係ヲ見ルニ菅原⁽⁹⁾ハ東京市内男子中等學校生徒ニツキ陰性者ニ於テ陽性者ニ比シ促進スト稱ス。山田(光)⁽²⁴⁾ハ岐阜市内某工場女工ニツキ「ツベルクリン」反應陽性者ハ一般ニ同反應陰性者ニ比シ赤血球沈降速度大ナリト發表ス。砂川⁽³⁰⁾モ同様「ツベルクリン」皮内反應強陽性

者ニ於テハ同陰性者ニ比シ赤血球沈降速度稍々促進セル傾向アリト。横井等⁽³⁾ハ赤血球沈降速度促進者ハ陽性者ニ多く、從ツテ促進者ノ陽性率ハ正常者ニ比シテ高シト。余等ニ於テモ同様ノ結果ヲ得タリ。

之ヲ要スルニ余等ノ施行セル金澤市内某男子中等學校生徒ノ結核ヲ主トセル集團檢診ニ於テ「ツベルクリン」皮内反應陽性率ハ從來報告セラレタルモノニ比シ高率ナリトハ考ヘラレズ。ム

シロ低率ナルヲ知ル。且ツ要注意者ト認ムベキ74名ニ於テモ喀痰檢索上感染源ト見做スベキモノノナカリシハ極メテ幸甚トスベキナリ。只3名ノ空洞所有者ニ就テハ充分ナル警戒ヲ要スルモノト考ヘラル。更ニ本校ニ就テ逐年的ニ同一檢索ヲ施シ、追ツテ結核ノ豫防ニ萬全ヲ期スルト共ニ上述ノ諸檢査成績ノ推移ヲ鮮明ナラシムル豫定ナリ。

第5章 結 論

金澤市某男子中等學校生徒751名ニツキ結核集團檢診ヲ行ヒ次ノ成績ヲ得タリ。

1. 「ツベルクリン」皮内反應ノ陽性率ハ第1學年 36.5±3.8%, 第2學年 36.1±3.8%, 第3學年 37.7±3.9%, 第4學年 47.0±4.1%, 第5學年 39.5±4.3%, 平均 39.3±1.8%ニシテ學年ト共ニ増大ス。

2. 出身小學校別成績ハ下級學年ニ於テハ市小學校出身者陽性率大ナルモ上級學年ニ於テハ郡部小學校出身者陽性率大ナリ。

3. 父兄ノ職業別成績ニ於テハ自由業及ビ商工最大、勤人最小、農業及ビ無職ハ中間ニ位ス。

4. 既往症別成績ニ於テハ結核性既往症アルモノノ陽性率ハ62.9±6.1%ニシテ無キモノノ陽性率 37.2±1.8%ニ比シテ遙カニ大ナリ。

5. 肺活量トノ關係ニ於テハ陽性者、陰性者ノ間ニ差異ヲ認ムルコト能ハズ。

6. 「レントゲン」線檢査成績ハ正常ト思ハレルモノ 265名 (35.3±1.7%), 結核性異常所見アルモノ 486名 (64.7±1.7%)ナリ。

7. 「レントゲン」線所見ト「ツベルクリン」皮

内反應トノ關係ニ於テハ「レントゲン」線所見ニ結核性異常ヲ認メタルモノノ「ツベルクリン」反應陽性率ハ「レントゲン」線所見正常者ノ「ツベルクリン」反應陽性率ヨリ大ナリ。又「ツベルクリン」反應陽性者ニ於テハ陰性者ニ於ケルヨリ「レントゲン」線所見上變化ヲ認ムルモノ多シ。

8. 赤血球沈降速度促進者ハ92名 (12.3±1.3%)ニシテ「レントゲン」線所見ニ變化ヲ認ムルモノニ促進者多シ。

9. 赤血球沈降速度ト「ツベルクリン」皮内反應トノ關係ニ於テハ陽性者中ニ促進者多シ。

10. 既往症ト赤血球沈降速度トノ間ニハ特殊關係ヲ見出スコトヲ得ザリキ。

11. 含嗽水ヨリ結核菌培養ヲナスモ菌陽性者ヲ發見セズ。

12. 「レントゲン」線所見ヲ基礎トシ他ノ檢査成績ヲ參考トシテ結核要注意者74名ヲ發見セリ。然レドモ何レモ喀痰檢査ヨリシテ感染源トハ認メラレザリキ。

擱筆ニ臨ミ終始御懇篤ナル御指導ト御校閱ヲ賜リタル恩師谷野教授並ビニ柿下助教ニ深謝スルト共ニ御援助ヲ與ヘラレシ學校當局ニ感謝ス。

文 獻

1) 田澤, 全國公立結核療養所會議ノ經過概要。結核, 第18卷, 36頁, 昭和15年ヨリ引用。 2)

Westergren, Über die Stabilitätsreaktion des Blutes, Nebst Vergleichswerten bei verschiedener

Methodik. Kl. Wochenschrift. Jg. 1, Nr. 27, S. 1359, 1922. Zur Methodik der Senkungsreaktion Dtsch. Med. Wschr. 1923, Nr. 7, S. 218.

3) **横井, 菱川, 黒田**, 金澤市内某高等専門學校生徒ノ結核調査成績. 十全會雜誌, 第45卷, 第10號, 3151頁, 昭和15年. 4) **上田, 森田, 河村**, 金澤市外野々市町尋常高等小學校全童ニツキ施行セル「マ」氏反應ニ就テ. 民族生物學研究, 第6輯, 141頁, 昭和13年. 5) **有馬(宗), 安達等**, Mantoux 氏反應ヨリ觀タル石川縣農村民ノ結核感染. 結核, 第17卷, 第5號, 593頁, 昭和14年. 6) **金原, 今井等**, 金澤市ノ一小學校兒童約1千名ニ施行セル集團檢診成績(第1報). 十全會雜誌, 第45卷, 第8號, 2220頁, 昭和15年. 7) **芦澤, 木村, 田中, 大月等**, 石川, 福井兩縣下ニ於ケル集團檢診結果ニ就テ. 結核, 18卷, 第6號, 572頁. 8) **有馬(英), 山田**, 青年期ノ結核ニ關スル研究. 結核, 第10卷, 第5號, 232頁, 昭和7年. 9) **菅原**, 青少年期ニ於ケル健康本邦人赤血球沈降速度ノ代表値ニ關スル生物統計學的觀察. 臨床内科, 第1卷, 第2號, 98頁, 昭和10年. 10) **日置(達), 井下, 米田, 田中**, 大阪市内某師範學校寄宿舎生徒ノ健康調査成績. 結核, 第15卷, 第3號, 241頁, 昭和12年. 11) **池内, 有馬, 坂本, 山本**, 大阪府下男女中等學校(5校)生徒ノ結核ニ關スル集團檢診成績. 中央醫學, 第9卷, 31頁, 昭和15年. 12) **砂川**, 奈良縣中小學生ニ於ケル「ツベルクリン」皮内反應ノ成績. 結核, 第13卷, 第3號, 187頁, 昭和10年. 13) **南滿洲鐵道株式會社 地方部衛生部**, 在滿邦人兒童生徒ノ結核ニ關スル調査. 東京醫事新誌, 第59卷, 第2953號, 2749頁, 昭和10年. 14) **武智**, 中等學校小學校兒童生徒結核感染率ニ關スル調査. 學校衛生, 第20卷, 562頁, 昭和15年. 15) **今村**, 肺結核ニ關スル集團檢診. 結核, 第16卷, 第5號, 627頁, 昭和13年. 16) **小田, 龜灣**ニ於ケル結核ノ地理病理學的觀察. 結核, 第16卷, 第12號, 1456頁, 昭和13年. 17) **高島, 加藤**, 北陸中等學校生徒ノ

「マ」氏反應ニ就テノ報告. 民族生物學研究, 第6輯, 135頁, 昭和13年. 18) **貴島, 舩松**, 若年女子「ツベルクリン」反應陽性者ト陰性者トノ一比較. 結核, 第8卷, 556頁, 昭和5年. 若年女子ニ於ケル「ツベルクリン」反應陽性率轉化及結核罹患ノ觀察. 結核, 第9卷, 1頁, 昭和6年. 19) **瀧本, 深谷**, 女子青年(看護婦)ニ於ケル「ツベルクリン」反應ト結核發病ノ觀察. 北海道醫學會雜誌, 第11年, 877頁, 昭和8年. 20) **安宅**, 金澤醫大附屬醫院看護婦並ニ同養成所生徒ノ補體結合反應及ビ「ツベルクリン」皮内反應. 結核, 第15卷, 651頁, 昭和12年. 21) **佐々木**, 女子青年(看護婦)ニ於ケル結核研究. 結核, 第16卷, 634頁, 昭和13年. 22) **杉山, 伊藤**, 「ツベルクリン」反應ヨリ觀タル隊兵ノ結核感染率ト結核. 軍醫團雜誌, 第249號, 325頁, 昭和9年. 23) **中本**, 22)ヨリ抄. 24) **山田(光)**, 岐阜市内一毛絲紡績工場女工ノ赤血球沈降速度ト「ツベルクリン」皮内反應ニ就テ. 結核, 第13卷, 462頁, 昭和10年. 25) **田中, 田坂, 野村**, 大阪府下某紡績工場女工ノ「ツベルクリン」皮内反應ト其ノ後ノ觀察ニ就テ. 結核, 第15卷, 664頁, 昭和12年. 26) **古屋, 向井, 青木等**, 豫備試驗トシテ施行セル5歳ヨリ19歳ニ到ル各年齡期學童及生徒ノ「マ」氏反應調査成績. 民族生物學研究, 第6輯, 83頁. 27) **堂野前, 林, 高橋, 安原**, 若年健康女子ニ於ケル「ツベルクリン」反應ト胸部レントゲン所見ニ就テ. 千葉醫學會雜誌, 第9卷, 第2部, 129頁, 昭和6年. 28) **氏家**, 「ツベルクリン」反應ト胸部X線像トノ研究. 實踐醫學, 第3年, 第4號, 375頁, 昭和8年. 29) **安宅**, 金澤醫大附屬醫院看護婦並ニ同養成所生徒ノ補體結合反應及ビ「ツベルクリン」皮内反應. 結核, 第15卷, 651頁, 昭和12年. 30) **砂川**, 小學兒童及中等學生ニ於ケル赤血球沈降速度並ニ之ト「ツベルクリン」反應トノ關係ニツイテ. 結核, 第16卷, 第6號, 844頁, 昭和13年.